

科目名	教育基礎論					開講 キャンパス	神園
担当者	香川 せつ子						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	2	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	本講義では、あらゆる教育活動の基礎となる教育の本質と社会的機能について主に歴史的観点から考察する。まず人間の発達と教育との関係について概説したのちに、西洋と日本の教育の思想と制度の歴史の変遷を辿り、人間観や子ども観の変化を社会背景や時代変化に留意しつつ検討する。また現代の子どもをとりまく環境をふまえて、家庭や学校、地域社会の在り方を考えるとともに、グローバル化、情報化が進行する21世紀社会における教育改革の方向性について、外国の動向を参照しつつ検討する。						
授業の 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の本質と役割について考察し、自分の言葉で説明できる。</li> <li>2. 人間の発達と教育の関係について理解し、教育的見地から説明できる。</li> <li>3. 教育の思想と制度の歴史の展開を把握し、子どもと家庭、学校、社会との関係の変化を説明できる。</li> <li>4. 人間観や子ども観の変遷を知り、子どもについて多様な見方があることを理解する。</li> <li>5. 日本の教育制度の変遷を社会の変容との関係で理解し、西欧世界のそれと比較考察できる。</li> <li>6. 学校教育と家庭教育の違いと共通性を理解し、両者の連携について考えたことを説明できる。</li> <li>7. 教育が社会に埋めこまれたシステムであることを理解し、現代社会における教育の在り方について複眼的な視点からとらえ、あるべき教育制度改革について意見を述べるができる。</li> <li>8. 教師に求められる能力や資質について主体的実践的に考え、「生涯学び続ける教師」としての自己像を描くことができる。</li> </ol>						
学習方法	講義を基本に、必要に応じてワークシートを用いた演習を取り入れる。授業時間内に数回の小レポートを課し、学習内容を確認する。						
テキスト及 び参考書等	テキスト：鈴木理恵・三時眞貴子編『教育の歴史・理念・思想』協同出版						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎		○	60		
小テスト等	◎	○			30		
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎		5		
受講者の発表							
授業への参加度			◎		5		
その他							
合計					100		
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	教育とは何か						
第2週	発達と教育						
第3週	教育の場 (学校、家庭、地域社会)						
第4週	子ども観の歴史の変遷						
第5週	近代以前の社会における教育						
第6週	公教育制度の成立 (その1 西洋)						
第7週	公教育制度の成立 (その2 日本)						
第8週	近代国家における教育の機能						
第9週	国家主義体制と教育制度						
第10週	二つの世界大戦と教育						
第11週	戦後の教育改革と教育制度						
第12週	福祉国家の形成と教育						
第13週	社会経済構造の変化と教育						
第14週	情報化、グローバル化の進行と教育の課題						
第15週	講義のまとめ						
第16週	期末試験						
備考	受講生は、授業の前にテキストの該当章を読んで予習する。						